

小学校英語を指導する際に押さえておきたいポイント
—小学校教員養成課程における限られた条件の下で—

西 崎 有多子

愛知東邦大学

小学校英語を指導する際に押さえておきたいポイント — 小学校教員養成課程における限られた条件の下で —

西 崎 有多子

目次

1. はじめに
2. 本学における小学校英語関連科目
3. 他大学も含めた小学校英語関連科目の現状
4. 英語を教えることへの不安
5. 『Hi, friends! 1』『Hi, friends! 2』に対応したポイント
6. 押さえておきたい基本知識
7. おわりに

1. はじめに

2020 (H32) 年から完全実施される新学習指導要領に伴い、小学校における英語教育は今までにない大きな変革の時期を迎えることになる。2011 (H23) 年に外国語活動が5・6年生を対象に必修化されたが、今後は、3・4年生が外国語活動、5・6年生は教科としての「外国語 (英語)」が開始される。現場では、指導者を巡って様々な形態があるものの、今まで基本的には高学年担当の教員が主に担ってきたことに加え、今後は中学年担当の教員も外国語活動としての英語の指導をすることになる。言い換えれば、約3分の1だった英語を教える小学校教員が、全体の約3分の2となる。低学年ばかりを担当することは考えにくいいため、ほぼ全員がその立場から逃れられない状況となる。加えて、「学習者のモデル」としての教員の立場は過去のものとなり、「英語で教える」ことが可能な教員なるという大きな飛躍が期待されている。

これらの実施にあたって、小学校教員を目指す学生への小学校英語指導法の習得がより求められるばかりでなく、現職の教員への研修も求められる。経験者には更なる、指導経験のない、または少ない教員へは、基礎からの研修が必要となる。教員養成課程においては、現在「小学校英語教育法」等の科目は、多くの大学において必修とはなっておらず、期待される若い教員の指導が実際には知識や経験がないために限られている状況になることが懸念される。

本稿では、教員養成課程において押さえておくべき事項を中心に、現職教員の研修にも役立つ内容を、まずは教材に沿って整理し挙げていく。予め問題となりそうな、指導の際に確認が求められそうな項目を整理することによって、現場での不安や混乱を軽減できるようにすることが目的である。それぞれの項目の詳細については、稿を改めて論じたい。

2. 本学における小学校英語関連科目

本学の教員養成課程における小学校英語関連科目は、「小学校英語」（3年・前期）「小学校英語教育法」（3年・後期）の2科目で、いずれも選択科目である。3年前期で概要、理論等を学び、後期で模擬授業を中心とした実践を通して学ぶ内容となっている。それぞれのシラバスは次のとおりである。

「小学校英語」（3年・前期）シラバス 授業回数15回

1. 小学校における「外国語活動」とは
2. 「外国語活動」導入までの経緯
3. 学習指導要領における「外国語活動」
4. ビデオによる「外国語活動」授業観察
5. 言語習得理論と子どもの言語習得
6. 日本における英語教育
7. 文部科学省配布教材“Hi, friends! 1・2”
8. 電子黒板、デジタル教材等の活用
9. 歌・チャンツ・ゲーム等の活用
10. 「外国語活動」における指導者
11. 国際理解教育・他教科と関連した「外国語活動」
12. 文字指導・言語や文化の理解の取り入れ方
13. 評価の考え方と実際
14. 英語教育における小中連携
15. まとめ

「小学校英語教育法」（3年・後期）シラバス 授業回数15回

1. 「外国語活動」の理念を踏まえた授業とは
2. ビデオによる「外国語活動」授業研究
3. 模擬授業（1）とにかくやってみる
4. 5年生向け教材研究“Hi, friends! 1”とその発展
5. 6年生向け教材研究“Hi, friends! 2”とその発展
6. 年間指導計画、単元・授業の構成、指導案の作成
7. 模擬授業（2）工夫してやってみる
8. 教材・教具の作成
9. 模擬授業（3）自作教材を使ってみる
10. 学級担任とALTの役割
11. 模擬授業（4）チームティーチングを用いて

12. 指導案研究と観点別評価
13. 模擬授業（５）評価の実際
14. 「外国語活動」の意義と課題
15. まとめ

現在、教育学部は最上級生が３年生であるため、これら２科目の開講は2016年度から開始されているが、前期を終了した時点でいくつかの課題が明らかになった。外国語活動が正式に導入された2011（H23）年に６年生であった生徒は2016（H28）年現在、高校２年生である。「英語活動」等としてゲームや歌を体験したことのある生徒もいるが、外国語活動として体験した生徒はまだ大学に入学していない。全員が経験している他教科に比べて、外国語活動の経験がない学生たちにとっては、見たことも聞いたこともない科目（正確には現在は科目でなく「領域」）であり、どういふものか想像もつかない学生が存在する。前期の「小学校英語」の15回の授業で、未知な科目（領域）の概要や理論を学ぶことは容易ではない。

また、英語自体に対する苦手意識が強い学生が多く、選択科目であるため、可能ならば避けて済ませようとする学生もいる。総合的な英語力が低い学生にとっては、指導法以前に英語ができない状況をまず改善する努力が同時に求められる。一部の学生は、高校での英語授業数が極端に少なく、学年が上がるにつれカリキュラムに英語の授業がなくなったという学生もいる。AO入試や様々な推薦入試での入学により受験勉強をしていない学生に加え、ゆとり世代で教科書で学ぶ語彙数も少なく、発音記号なども学んでいないという状況もある。

前期の「小学校英語」履修者数は、小学校教員免許取得を目指す学生のうち約半数であり、割合としては低すぎると考えている。教職科目が時間割の1限や5限に設定されることも多く、今年度は前期・後期とも5限に設定されていることも、マイナス要因であることは否めない。このような学生たちは、２年後に自らが教壇に立って、英語を教えることが想定できていない面もあり、その甘さ、姿勢にも問題がある。

一方、授業へ積極的に取り組み、同時に英語力の向上のための努力を怠らない学生もおり、毎回行っている語彙力向上のための小テストで、高得点を取り続けている。前期は履修しなかったが、後期からの履修が可能かを相談に来た学生もおり、学生の意識の差は大きいといえる。理論面を中心に、授業後に復習を兼ねて教材を再読しながら各自で重要用語を記入していく形式のプリント教材を用意する等、授業だけでなく自習を通して理解を促す工夫を行っている。

3. 他大学も含めた小学校英語関連科目の現状

このような問題は、本学だけの問題なのだろうか。他大学の状況はどうなっているのだろうか。小学校教員養成課程をもつ大学といっても、国立の教員養成系大学に多く見られる科目ごとの専攻や専修コースを設けている大学と本学のような私立大学の教職課程では、カリキュラムも大きく異なり、その特徴も様々である。

大阪教育大学 学校教育教員養成課程 英語教育専攻小学校コースのカリキュラムマップ
〔1〕によれば、英語専攻専門科目 小学校コースとして、すべて選択科目として以下の科目が開講されており、手厚いカリキュラムが展開されている。

- 1年次 小学校英語教育概論
- 2年次 小学校英語教育法Ⅰ
小学校英語教育法Ⅱ
小学校英語教材論
- 3年次 小学校英語教育研究Ⅰ
小学校英語教育研究Ⅱ
小学校英語教育特論

2016（H28）年2月27日に文部科学省で行われた、平成27年度「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」シンポジウムにおいて配布された資料〔2〕の初等調査結果によると、「初等教育教職課程に英語教育の専攻・専修コースがあるか」に対して、「ない 69%、ある 26%、無回答 5%」となっている。小学校教員養成を行っている大学のうち、70%はコースがないという点において本学と同じであることがわかる。加えて、コースがある大学の定員は各15名程度であり、対象となる25校で養成できるのは年間300名となり、全国に2万校ある小学校への供給には、70年かかるとも言われる。私立大学の一般の教職課程における英語のできる教員の養成が欠かせないということになる。「小学校外国語活動、英語教育に関する科目の開講」については、「している 75%」であり、4分の3の大学が小学校英語関連科目を設置している。しかし、その内「必修科目になっている 28%」であり、7割以上の大学で、現在のところ本学と同じく選択科目となっており、履修するか否かの選択は学生に委ねられている。その割合は、大学によって異なることが推察される。

「初等教育教職課程の英語教育で改善したいこと」（大学が）についての上位4項目は、「カリキュラム、指導内容、担当教員、時間数」であり、「今後、小学校英語、特に教科化に向けて求められている資質・能力の明確化と対応が急務」とされている。「今後、学習指導要領改訂を受けて、重要と思われる内容」として挙げられている上位5項目は、「事例研究・授業の作り方、4技能の指導（聞くこと・話すこと）、外国語活動の模擬授業、外国語科の模擬授業、模擬授業のふりかえり」である。「初任者研修で重視されている項目」の上位5項目は、「基本的な指導技術の獲得、授業を改善しようとする意欲の向上、モデル授業の参観による、優れた指導方法の習得、自らの実践上の課題の把握、教材の研究方や指導案の作成法の習得・向上」である。いずれも実践的な授業内容が望まれていることがわかる。

内野（2015）外国語活動の指導に関する、全国の国立大学と東京都に所在する私立大学、計89大学についての調査によれば、「小学校英語専攻を設置していない大学は54校（60.67%）」〔3〕に対して、「国公立大学で小学校英語専攻を設置している大学 55校中34校、私立大学では34校

中1校」となっている。小学校英語専攻は国公立大学の半分以上あるが、私立大学では3%にも満たず、ほとんどないに等しい。「少なくとも1つの外国語活動指導法が開講されている大学は89校中78大学(87.64%)」、「1大学あたりの開講講義数は、2.06」、それに対して「小学校英語専攻のある大学での開講講義数は、3.40」であり、講義内容の上位4項目は、「模擬授業、指導法、教材、英語力向上」である。

このことから、「小学校英語」「小学校英語教育法」の2科目を選択科目として開講している本学は、きわめて平均的な状況であるといえる。また内野(2015)は、開講されていても必修でないなら「実際に教員免許状を手にする学生の大部分は外国語活動指導法を受講せずに現場へ出て行くことになる」としている。このような現状は、本学だけでなく全国の多くの教員養成課程で起こっており、必修化が義務付けられるまでのあと数年間、同じ危機的な状況が続くことが容易に想像できる。多くの大学における該当科目の必修化が教職課程再課程認定後の2019(H31)年からとなると、2019年度入学生のカリキュラムからの変更となり、対象学生が卒業し教員になる2023(H35)年以降の採用者のほとんどが、やっと大学で「小学校英語」に関する講義を受けて教員となることになる。2020(H32)年度からの教科化ならびに中学年への外国語活動導入にあたりこの対応は十分とは言えず、選択科目であっても小学校英語関連科目を履修する意欲のある学生が強く求められる。

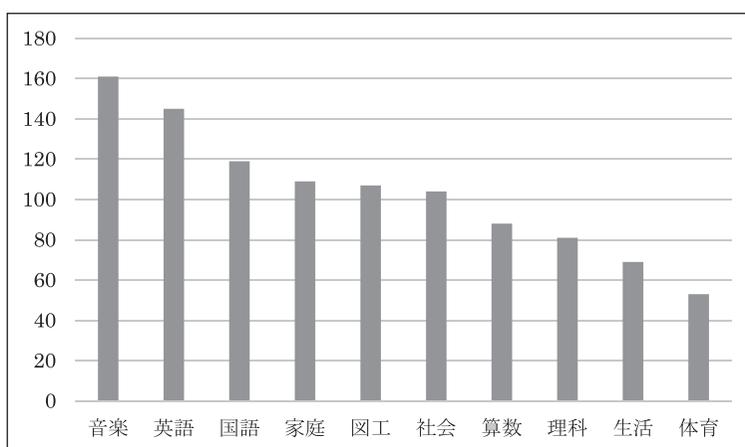
4. 英語を教えることへの不安

小学校英語関連科目の履修において本学は例外的ではなく、平均的と考えられることがわかったが、現状のままで、学生たちに将来小学校で英語を教えることに対する不安はないのだろうか。本学の教育学部初等教育コース3年生22名に対して、前期途中の6月にアンケートを実施した。

「小学校英語教育法」は未習であるが、他科目の教育法に関する数科目は既を受講済みの学生たちである。「既存の9科目に英語を加えた10科目中、どの科目を教えることにより不安を感じているか?教えるに際して最も不安を感じている科目を10とし、最も不安のない科目を1点としてすべての科目を序列化して点数を付けてください。」とした。

それぞれの科目の点数を合計したものが、このグラフである。英語が最も不安を感じる科目かと思われたが、音楽が上回っていた。音楽と英語は、10点と9点に集中して、高い方に偏りが大きいのに対し、体育は、2点と1点に集中して低い方に偏りが見られた。いずれの科目も学生の傾向に偏りがあることがわかる。一方、国語はあまり偏りが見られなかったが、全体的に見ると不安が大きい科目となっている。この結果に対して数名の学生に理由を尋ねたところ、音楽に対してはピアノが弾けない不安が大きいために教えることに対する不安が大きく、英語に関しては英語力全般への不安があるため、教えることに対する不安になっているとの共通の回答が得られた。本学の学生にとって、ピアノと英語力向上が課題であるともいえる。

表1 各教科に対する教えることに対する不安の大きさ



アンケートでは、「小学校で英語を教える前に身に付けたいこと」として発音、発音記号、文法などの10項目以上の中から、上位4択での回答があったが、「英文法」を選んだ学生が、有効回答22名中、15名を占め、英文法への不安、必要性が高いことがわかった。本来ならば、総合的な英語力を養成した上での小学校英語教育（法）であることは承知しているが、全体の時間数などの現状から内容的に出発点を大きく遡ることは難しく、教職課程全体の枠の中においても、科目の増設や必修化は容易ではない。苦渋の選択として部分的な手当てとしての英文法や英語に関する知識を身に付けておく必要がある。小学校英語、小学校英語教育法のシラバスには、文法事項を独立したテーマとして扱うことはないが、英文法を含め、できるだけ学生たちの不安を取り除き、将来、現場での困惑を減らすための知識を拾い出して、授業を準備する段階で提示、確認しておくとするれば、何を教えておくべきだろうか。

5. 『Hi, friends! 1』『Hi, friends! 2』に対応したポイント

以下の表は、『Hi, friends! 1』『Hi, friends! 2』の各レッスンにおいて、授業を行う前に知っておくべきこと、確認しておくべきことについて指導者の利便を考えてレッスン毎にまとめたものである。現場での不安や混乱を予めなくしたり、軽減することに寄与できると考える。単元目標欄は、文部科学省のウェブサイト〔4〕からそのまま引用した。英語関連には直接英語に関連した事項を、確認事項には発展的に授業を行う際に参考となる事項を挙げた。それぞれの詳細については、稿を改めて述べていく予定であるが、ここではポイントのみ挙げる。

『Hi, friends! 1』

Lesson 1	Hello!
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に挨拶しようとする。 ・英語での挨拶や、自分の名前の言い方に慣れ親しむ。 ・世界には様々な言語があることを知る。
英語関連	—
確認事項	世界の挨拶いろいろ、挨拶の持つ意味、挨拶のことばの文字通りの意味 1国≠1言語、ローマ字の復習、ヘボン式と訓令式 世界の言語はいくつある？ すべての言語に文字はある？ 世界の国、いろいろランキング (KIDS 外務省)

Lesson 2	I'm happy.
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表情やジェスチャーをつけて相手に感情や様子を積極的に伝えようとする。 ・感情や様子を表したり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。 ・表情やジェスチャーなどの言葉によらないコミュニケーションの大切さや、世界には様々なジェスチャーがあることに気付く。
英語関連	—
確認事項	世界の中ではジェスチャーは異なる意味を持つ場合があり、注意が必要。 ことばが異なるように、ジェスチャーも異なる、ジェスチャーとことばの役割

Lesson 3	How many?
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に数を数えたり、尋ねたりしようとする。 ・1～20の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 ・言語には、それぞれの特色があることを知る。
英語関連	可算名詞（普通名詞・集合名詞）と不可算名詞（物質名詞・固有名詞・抽象名詞）の違いと考え方、可算名詞の複数形の作り方と発音、主な不可算名詞の例（リスト）、不可算名詞等を数える方法
確認事項	不可算名詞を使って量を尋ねるときは、How much?

Lesson 4	I like apples.
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなものや嫌いなものについて、積極的に伝えようとする。 ・好きなものや嫌いなものを表したり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。 ・日本語と英語の音の違いに気付く。
英語関連	Lesson 3 と同じ
確認事項	カタカナ語（外来語、和製英語） 語源

Lesson 5	What do you like?
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。 ・色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・日本と英語の音の違いに気付く。
英語関連	形容詞を重ねる場合の語順 (限定詞・序数・+数量・意見・大小・新旧・形・色・産地・材料+名詞) 例 the last two pretty small old brown French steel coins
確認事項	虹の色の認識の違い、混色 12色の色鉛筆の色は？ 今はもうない肌色について 多角形の言い方

Lesson 6	What do you want?
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にアルファベットの大文字を読んだり、欲しいものを尋ねたりしようとする。 アルファベットの文字とその読み方とを一致させ、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 身の回りにアルファベットの大文字で表現されているものがあることに気付く。
英語関連	—
確認事項	アルファベットを使ったいろいろなゲームを用意し、継続的に行う。 身の回りのアルファベットに気付かせる指導をする。 英語アルファベット文字の相対頻度

Lesson 7	What's this?
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ある物について積極的にそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。 ある物が何かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 日本語と英語の共通点や相違点から、言葉の面白さに気付く。
英語関連	冠詞 a, the
確認事項	英語の同音異義語、和製英語、語源 表音文字と表意文字

Lesson 8	I study Japanese.
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。 時間割についての表現や尋ね方に慣れ親しむ。 世界の小学校の学校生活に興味を持つ。
英語関連	前置詞（時を表す at, in, on） andの使い方
確認事項	外国語をあらわす単語（Russian, French などの）

Lesson 9	What would you like?
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 欲しいものについて丁寧に積極的に尋ねたり答えたりしようとする。 欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。 世界の料理に興味をもち、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気付く。
英語関連	英語の丁寧表現 可算・不可算名詞の扱い
確認事項	世界の料理の共通点は？世界の料理に違いが生まれた理由は何か？

『Hi, friends! 2』

Lesson 1	Do you have “a”?
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にある物を持っているかどうかを尋ねたり答えたりしようとする。 31～100の数の言い方やアルファベットの小文字、ある物を持っているかどうかを尋ねる表現に慣れ親しむ。 世界には様々な文字があることを知る。
英語関連	冠詞 a, the 可算・不可算名詞
確認事項	アルファベット用フォント

Lesson 2	When is your birthday?
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に誕生日を尋ねたり、誕生日を答えたりしようとする。 英語での月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付く。
英語関連	数字、序数
確認事項	月の行事等

Lesson 3	I can swim.
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に友達に「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりしようとする。 「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。 言語や人、それぞれに違いがあることを知る。
英語関連	canの3つの意味（～できる、はずがない、～してもよい）
確認事項	スポーツの動詞：動詞1語、playが付く、その他の表現 uni-, bi-, tri- + cycle

Lesson 4	Turn right.
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に道を尋ねたり、道案内したりしようとする。 目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付く。
英語関連	—
確認事項	海外の地図記号、海外の地図、地元の地図 ストリートビューを使つての道案内 東西南北

Lesson 5	Let's go to Italy.
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。 行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。
英語関連	紹介のThis is ～.
確認事項	国名、地域名の単語、国旗、色、形

Lesson 6	What time do you get up?
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に自分の1日を紹介したり、友達の1日を聞き取ったりしようとする。 生活を表す表現や、1日の生活についての時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。 世界には時差があることに気づき、世界の様子に興味をもつ。
英語関連	数字、時刻の言い方 日常動作の単語、言い方
確認事項	身の回りのものの単語 世界遺産などの有名な観光地 時差のしくみ

Lesson 7	We are good friends.
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に英語で物語の内容をつたえようとする。 まとまった英語の話を聞いて、内容がわかり、場面にあったセリフを言う。 世界の物語に興味をもつ。
英語関連	総復習
確認事項	民話としての桃太郎のパリエーションとその理由

Lesson 8	What do you want to be?
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に自分の将来の夢について交流しようとする。 どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 世界には様々な夢をもつ同年代の子どもがいることを知り、英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して、言葉のおもしろさに気付く。
英語関連	語形成 組み合わせによる単語 接頭辞 (un-, in-, dis-)・接尾辞 (-er, -ist, -ment, -ness 形容詞 -able, -ic, 動詞 -ize, -ate, 副詞 -ly, -wise)
確認事項	さまざまな職業名、職業表記の日本語と英語の共通点 なりたい職業ランキング

6. 押さえておきたい基本知識

以下に箇条書きした項目は、どのレッスンに限らず、日常から押さえておいてもらいたい内容である。授業準備として十分な教材研究を行うことにより、英語の授業に対する特有な不安を軽減できるだけでなく、長期的には必ず英語力向上につながっていくからである。

6.1 語彙

小学校英語関連科目におけるすべての単語に対して、以下のことを行っておく。

- 1) 意味、品詞、発音記号、発音、類語の有無の確認
- 2) 名詞の場合は、可算・不可算名詞の区別、複数形とその発音の確認
- 3) 語彙の範囲を子どもたちの実態に合わせて興味を持ちそうな単語にまで広げて想定し、上記同様の確認をしておく。

6.2 類語

- 1) 間違いやすい類語とその違いを確認
- 2) 説明+例文で違いを実感して理解しておく。

『似ている英語』に記載されている英語の類語例には次のようなものがある。

名詞：chair/stool, clock/watch, key/lock, center/middle, gift/present, road/street,

形容詞：big/large, high/tall, many/much, little/small

動詞：cut/slice, laugh/smile,

前置詞：among/between, by/near,

6.3 発音記号

- 1) 英語音声学の基礎として、発音記号毎に発音できるようにする。
- 2) 発音に自信がない場合は、電子辞書やインターネット辞書等で音声を聞き確認する。

3) 間違いやすい発音、日本人にとって紛らわしい発音を確認しておく。

6.4 英語だけに偏らない、英米に偏らないworld-wideな視点

1) 英語だけでなく、日本語ならびに一つ一つの外国語を大切に思う姿勢を育てる。

2) 通常あまり取り上げられない国々にも目が向くような話題を多く取り上げる。

例 KID外務省資料 世界いろいろ雑学ランキング

6.5 ことばとしての英語に興味を持たせる

1) 世界中で使われるようになったのはなぜか。

2) 英語にも種類や方言があるーアメリカ英語とイギリス英語、国内での方言

3) 公用語になっている国はどこか。

6.6 擬態語・擬声語の活用

1) ことばの面白さを体験的に理解させる。

2) 日本語のオノマトベと比較しながら、絵本等を用いて導入する。

6.7 アルファベット用フォント

1) 英語を入力する時は、指導案を含めて、半角のアルファベット用フォントで入力し、スペルチェックを行う。和文用フォントをそのまま用いない。

2) 諸説あるが、「,」の後ろは1スペース、「.」の後ろは2スペース空ける。折り返しは音節の区切りで行う。

3) 児童が教科書で初期に目にする英語の字体は、視覚的にも影響が大きいことを認識し、教科書のフォントに近いものを使う。特に文字の導入期では、特定のフォントを繰り返し使用し、指導者の趣味で色々な文字を使ったりしない。

教科書の出版社は、各々独自のフォントを開発して使用している。ワードで使用できるフォントの中で、『Hi, friends!』に近いものには、Century Gothicがある。

例 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

4) いずれの場合も小文字の a と g には特に注意をし、ひげのない文字のフォントを使用する。

× a ○ a × g ○ g

5) 子どもにとって、印字されたゴシック体の文字と手書きする文字との間には、大きなギャップがある。手書きに近い文字に見える活字体を使用するのではなく、教員自身の手書き文字を見せて指導する。

× Comic Sans MS ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

7. おわりに

2020 (H32) 年の小学校英語教科化等の改革に向けて、教員を目指している学生は、小学校での英語教育に対してその成功の行方を担っているという自覚を持ち、真摯に英語力、指導力向上を目指して努力する必要がある。学生の意識改革に加えて、現場に即したカリキュラム改革も行

われなければならない。現職教員は、「学習者のモデル」から英語で指導できる教員へと前向きな変容が求められる。授業の進め方のノウハウだけではより良い英語の授業はできないことに、既に気付いておられるはずである。やはり英語力の底上げが必要であり、それは容易なことではないことも誰もがわかっているはずである。十分な予算の確保と研修等が求められるが、前回同様見切り発車の出発が懸念される。研修も今まで同様、カスケード方式が中心である。また、教材についても諸外国の色々な事例を示すだけの表層的な国際理解ではなく、相違点と共通点を見つけ出し、理由を考えさせ、そこから相手を理解し尊重する視点を育てる教材を開発をしていくべきである。課題は山積している。教員を目指す学生や現職教員が、一歩ずつ前へ踏み出すための一助になれる情報を提供していきたい。

《引用文献・参考文献》

- [1] 大教大カリキュラムマップ 検索日 2016年10月3日
http://osaka-kyoiku.ac.jp/_file/kyomu/kyokikaku/cmap/gk_english_el_map.pdf
- [2] 東京学芸大学 (2016) 『「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」シンポジウムー英語教育コア・カリキュラムの策定に向けて』シンポジウム報告書
- [3] 内野駿介 (2015) 「教員を志望する学生は大学で何をまなべるかー小学校外国語活動の指導に関する講義の実態調査ー」『JES journal』vol.15 小学校英語教育学会
- [4] 文部科学省ウェブサイト トップ>小学校、中学校、高等学校>外国語教育>“Hi, friends!” 関連資料>学習指導案 検索日 2016年10月3日
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1314837.htm

《参考文献》

- エイザー、S・ベティ (1996) 『エイザーのわかって使える英文法 下巻』プレントイスホール出版
- 江川泰一郎 (2008) 『英文法解説ー改訂三版ー』金子書房
- 江川泰一郎 (2014) 『江川泰一郎 英文法の基礎』研究社
- おかべたかし (2005) 『似ている英語』東京書籍
- 狩野晶子 アルク「英語力ブラッシュUP! やりなおし英文法」 検索日 2016年10月3日
<http://teacher.alc.co.jp/all/training/brushup/>
- 小寺茂明・吉田晴世 (2005) 『英語教育の基礎知識ー教科教育法の理論と実践』大修館書店
- 岸本映子 (2015) 「小学校英語のための<数>と冠詞を体系的に関連づけた名詞の指導と教材開発」『JES journal』vol.15 小学校英語教育学会
- 久野暉ほか (2009) 『謎解きの英文法 単数か複数か』くろしお出版
- 久野暉ほか (2004) 『謎解きの英文法 冠詞と名詞』くろしお出版
- 語学教育研究所 (2014) 『英語指導技術ガイド Q&A』開拓社
- 酒井英樹 (2014) 『小学校外国語活動 基本の「き」』大修館書店
- J.マーシャル/F.マクドナルド (1996) 『英語の「?」』研究社
- 長谷川瑞穂編著 (2014) 『はじめての英語学 <改訂版>』研究社
- 文部科学省『英語ノート1 指導資料』
- 文部科学省『英語ノート2 指導資料』

受理日 平成28年10月3日